



# のいる風景

## 川上 虎人

さん



【かわかみ たけと さん】

●千歳北陽高校ボクシング部1年  
5歳から本格的にボクシングをはじめ。中学1・2年生のときにも全国大会に出場した経験を持つ。現在、8月の全国高校総体に向けて、猛練習の日々を送る。

### 自分のボクシングスタイル を全国で見せる！

リング中央に立ち、判定のときを待つ。「負けを受け入れる心の準備はできていた」。

「青」コーナー」。レフエリーの声とともに右手を持ち上げられた。

6月3〜6日に行われた北海道高等学校ボクシング競技選手権大会。ライトフライ級で優勝したのは、千歳北陽高校1年の川上さんです。1年生がこの大会を制したのは、史上2人目の快挙です。

「試合前は、いつも緊張するので、とにかく落ち着こうと自分に言い聞かせています。上級生が相手で怖かったけど、リングに上がった瞬間には、『もう、勝つしかない』としか思いませんでした」と決勝戦に臨む前の心境を語ります。

決勝相手は、全国でも入賞する選手を多く輩出する強豪校の2年生。

1ラウンドから相手選手が果敢に攻め込んできたため、打ち合いの試合に

なりました。足を使いながらスピードで勝負する川上さんは、「自分の持ち味を發揮できなかった」と話します。

最終3ラウンド、「スタミナが切れましたが、相手のスタミナも切れているのが分かりました。ここで引いたら負ける。とにかく勝ちたい。もう一度闘志を燃やしました」と戦いのときの様子を語ります。

判定2-1。接戦を見事に制しても「えっ、まさか俺が？」と信じられなかったと言います。

川上さんは、「父がボクシングジムを営み、家ではたくさんのボクシングの漫画に囲まれています。物心ついたときには、自然とグローブに触れていました」とボクシングとの出会いを語ります。

週6日、1日2時間の練習のほとんどを実戦とフットワークに充てています。「短い時間で、内容の濃い練習ができるよう常に意識しています。」

試合はもちろん、練習でも勝ったときは、これまでの全ての苦労が報われるので、本当に気持ち良いです。だから、練習でも負けると悔しいです」という言葉は、多くの悔しさを味わった彼ならではのものです。

川上さんは、8月に神奈川県で開催される全国高校総体に出場します。「決勝戦の内容は、反省しかありません。全国大会までの短い時間で、得意のスピードに磨きをかけたい」と今やるべきことを明確にしています。

「全国大会では、スピードで勝負する自分のスタイルを出して、まずは1勝したい。そして、いずれは高校で日本一になりたい」と高い目標を掲げています。

最後に「川上さんにとってボクシングとは？」と尋ねると、「痛い！それでも、勝ちたい！」と笑顔で答えてくれました。千歳から全国に羽ばたく川上さんの活躍に期待です。